

令和7年度 新富町立富田中学校 学校評価書

教育目標「豊かな心、すぐれた知性、たくましい体を備え、粘り強さと実践力のある生徒の育成」				4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する							
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート			学校の自己評価		学校運営協議会		
				生徒	保護者	教師	成果(○)と課題(●)		評価	評価	所見
地域やコミュニティ・スクールを軸とした学校	1 コミュニティ・スクールの推進	ア:地域みんなが顔見知り イ:子どもが育てば地域が育つ ウ:学校いきいき 地域わくわく	○ 教師との熟議を計画し、情報交換・共有を図る。 ○ 学校と地域が交流できる企画立案。	88 %	83 %	87 %	○ 学校運営協議会で建設的な意見を交わすことができています。 ○ 職場見学の実施等に尽力していただいた。	4	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域人材の活用や情報発信は期待以上の成果であり生徒に良い刺激となつています。今後、地域の起死回生や共有体制を組織的に整備担当が変わっても地域とのきずなが途切れない仕組みづくりができるといいとおもいます。 ・ 職場見学や体験を通して子供たちが沢山の職種に興味を持ち、検索し、行動する力が養われているように感じています。 【学校所見】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会委員の皆様のご意見やご協力により、各学年で充実したキャリア教育・ふるさと学習が進められた。次年度向けに、さらに充実した活動を進めていきたい。 	
	2 地域資源(ひと・もの)の把握及び積極的な活用	ア:地域資源の把握 イ:地域人材の活用	○ 地域の組織(見沼拒団など)と連携して、どのような人材があるのか把握をしたり、地域の方から講話をいただいたり、実際に体験したりする活動を行う。 ○ 講話や活動支援が可能な場所、時間設定と人材の確保。				○ 昨年度の熟議を経て、職場体験学習など多方面にわたってコミュニティスクール等の積極的な協力が得られている。 ● 総合的な学習の時間の資料は共有できるようにしているが、実施後の課題等を共有し引き継ぎできるようにする必要がある。				○ 諸通信や学校 HP での情報発信、安心安全メールでの通知が活用されている。
	3 積極的な情報発信	ア:生徒の頑張りの様子を保護者・地域に広める	○ 学級通信や学校新聞、本校WEBページなどを利用して学校の様子を発信する。 ○ 諸活動の中で発信する機会を考える。				○ 昨年度当初や集会の場で周知した。 ● 1分前着席など徹底できていない。 ● 教師が授業開始と授業終わりの時刻が守れていない場面が見られた。(特に4校時終了後は給食準備に影響している。)				○ 計画通り、年2回のQU アンケートが実施できた。 ● 結果の活用ができていないが検証が必要である。
	4 校区内小学校・特別支援学校との連携	ア:小中連携の授業研究会、授業参観 イ:学業指導の小中合同会議、交流事業	○ 小中合同研修で意見交換会を行う。 ○ 講話や活動支援が可能な場所、時間設定と人材の確保				○ 定期的なアンケートの実施、教育相談の時間確保などにより生徒の状況等を把握することができた。 ○ 不登校傾向の生徒への受け入れ態勢ができています。				
豊かな心の育成	1 人権・同和教育の推進	ア:全教育活動を通して、人権認識の深化を図り、ノーマライゼーションの理念に基づき人権感覚を磨く	○ 人権集会の実施。 ○ 人権週間・人権意識向上の啓発の実施。	92 %	86 %	78 %	○ 1学期に、1年生対象とした、LGBTQ+を公表している方の講話を実施し、2学期に人権に関する講話を外部講師を招いて実施した。	3	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校支援や外部講師による教育成果をあげていますが、1分前着席などの基本的な生活習慣の乱れが気になります。生徒の集団作りの強化が課題だと感じます。 ・ もっとたくさんの保護者以外の方への告知も、自治体の回覧板に掲載するなどするとよいかと思った。家庭科の授業などばあばあきこんどん入ってきてもらえるといいと思う(ミンシなど)。 ・ いじめ、不登校に関しては、正直なところ我々に情報が少ないために評価が難しい。 【学校所見】 <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ不登校については、個別に対応ができていけると考える。基本的な生活習慣の乱れ(始業前の着席等)については、生徒会活動中心にルールや時間を意識した行動ができるよう指導を行い改善を図ってきたい。 	
	2 生活三原則の指導の徹底	ア:「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の指導の具現化	○ 2分前行動、1分前着席、チャイム黙想の徹底をし、授業を受ける雰囲気を整える。 ○ 全校オリエンテーションでの全材指導、休み時間等の見守り。 ○ 活動に無理のない時間設定、時間管理設定を行う。				○ 週1回の生徒理解による情報共有 ○ 月1回のいじめに関するアンケートの実施と対応、学期1回の教育相談の実施				
	3 是々非々の姿勢で判断できる集団づくり	ア:ルールの共有と人間関係の構築 イ:行事等を通じた連帯感や達成感 ウ:教師自らが「夢と希望」を語る場づくり	○ 生活心得を元にした常時指導 ○ Q-Uアンケートの実施及び活用 ○ 望ましい集団生活の在り方の周知				○ 定期的なアンケートの実施、教育相談の時間確保などにより生徒の状況等を把握することができた。 ○ 不登校傾向の生徒への受け入れ態勢ができています。				
	4 問題行動やいじめ、不登校への対応	ア:組織的な対応と関係機関との連携 イ:いじめ・不登校の未然防止と早期発見	○ 週1回の生徒理解による情報共有 ○ 月1回のいじめに関するアンケートの実施と対応、学期1回の教育相談の実施				○ 時間管理に道徳を明記し、時間の確保ができています。 ○ 副担任も授業を実施している。				
	5 道徳教育の充実	ア:道徳の時間の指導の工夫	○ 授業時間の確保と関連行事の支援								
健やかな体の育成	1 命や健康を大切にす教育の推進	ア:防災教育の充実及び交通指導の徹底 イ:薬物乱用防止教室、性に関する教育の実施 ウ:給食指導の充実	○ 年3回の避難訓練の実施、交通安全教室・自転車生学生会の実施。 ○ 年1回の薬物乱用防止教室の実施、外部指導者による各学年1回の性に関する教育の実施、各学年、年1回のがん教室の実施。 ○ 教員・保体委員への外部指導による救急処置の訓練。 ○ 毎日の配膳室での指導・管理	85 %	73 %	57 %	○ 避難訓練、交通安全教室を予定通り実施した。 ○ 他の教室も、年間計画上に設定した。 ● 自転車乗車時のヘルメット未着用や並列走行などの交通違反がある。 ● 計画外の教室・講話の実施などで授業をカットすることがあった。行事等の削減、会議や校務分掌も必要な物を再考する必要があると思う。	3	2.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育や保健指導の充実が評価できますが、自転車のヘルメットの着用や並列走行などの交通マナーに課題を感じます。次年度は部活動の地域移行も見据え、学校と地域が連携した安全指導を強化が目標だと感じます。 ・ 交通安全に対して(生徒に伝わっていない)今年も特にひどい。ヘルメットは学校の近くでしかかぶらない子がいる。 ・ 部活動の地域移行に関して町の対策がなかなか進まず学校側との連携が心配 【学校所見】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校に限らず、安全指導については下校指導や集会指導を通じて繰り返し指導を行ってきたい。部活動については町教委が主体となり、拠点校部活動(サッカー)が実施される。 	
	2 体力向上をめざした保健体育授業の実施	ア:体力向上プランに基づいた保健体育授業の充実	○ 単元のつながりを持たせた準備運動やウォーミングアップの実施				○ 壮行会に向けたキャプテン会や、日々の部顧問の指導ができていた。 ● 部活動生の減少、地域クラブへの移行により、学校部活動の重みが少なくなってきた。				
	3 心と体を鍛える部活動の推進	ア:責任感や連帯感を養う部活動指導の実施 イ:生徒一人一人に応じた支援を通じた技術の向上	○ 2ヶ月に1回のキャプテン会の実施								
学びに向かう力の育成	1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	ア:キャリア教育の視点を踏まえた教科指導の充実 イ:ふるさと学習を通じた「夢や希望」の具現化	○ 体験活動や講話の実施支援	78 %	60 %	58 %	○ コミュニティスクール等の協力もあり、職業に関する講話が多く実施でき、生徒に考えるきっかけを与えることができた。	2	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用や個別最適な学びの推進が評価できますが肯定率57%の項目もあり学力向上への手ごたえは中途半端だと考えます。生徒の学習支援を底上げする支援の具体化が求められます。 ・ ICTに関して、苦手意識のある先生がいるのではないのでしょうか。そんな方へのサポートや研修を充実する必要があると思います。 【学校所見】 <ul style="list-style-type: none"> ○ R8年度より、生徒用タブレットがクロームブックに変わる。これまでと仕様が大きく変わる。町教委主催の研修も企画されているが校内での研修も企画していきたい。 ○ 生徒理解は、情報共有も含め綿密にできている。SCやSSWとの連携も継続していきたい。 	
	2 授業の充実+ICTの積極的な活用	ア:一生使える教育技術を磨く イ:「美しい字」「わかりやすい発音・話術」 ウ:個に応じた指導、指導方法工夫改善の充実及び学校支援ボランティアとの連携 エ:問題にきづく力、問う力を育てる	○ スマイルネクストを利用して、個別のレベルで学習する。 ○ ICTハード面での支援や業者との連携 ○ しんとみスタイルに基づいた授業実践(授業マネジメントとICTを活用した教科指導の工夫)				○ 授業にICTを活用する教師が増えた。 ○ 主題研究で取り組みなどとして、授業等でICTを活用したり、活用方法を情報交換したりすることが増えた。それに伴い生徒のスキルも向上している。 ● 職員のICTを活用する力の差があり、全体的な向上の時間確保が必要である。				
	3 特別支援教育の充実(合理的配慮)	ア:特別な支援を要する生徒への支援体制の整備 イ:保護者及び関係機関との連携	○ 事例検討会の実施による共通理解。 ○ SC、SSW等と連携した支援。 ○ 保育所等訪問支援、町特別支援Coとの連携。				○ 年度当初に事例研修を実施し、生徒の実態の共通理解を図った。 ○ SC、SSW、SCの来校日を予定表に示し、活用を促している。 ○ 対策委員会を定期的に実施できている。				